要約

本研究は、受け手の性別と送り手からのメッセージによる同意への圧力の強さ、そして脅威と初期態度の一致性（脅威の方向）が心理的リアクタンスにおける性差に及ぼす影響を検証するとともに、心理的リアクタンスの喚起によって、身近な日常の場面における男女の同調傾向に違いが生じるのかを検討することを目的とした。実験は2（性別:男子、女子）×2（脅威の強さ:圧力の大小）×2（脅威の方向:順態度的脅威、反態度的脅威）の要因混合計画によって実施され、受け手の主観的反応として認知的反応、感情的反応、強制された行動の魅力、行動的反応が測定された。また、性役割尺度を用いて被験者の性役割を4タイプに分類し、性別と置き換えた分析も行った。

実験の結果、脅威の方向要因については受け手の初期態度と一致する脅威を与える順態度的脅威よりも、受け手の初期態度と一致しない脅威を与える反態度的脅威のほうが、受け手により否定的な反応を生じさせるということがわかった。

脅威の強さ（メッセージの圧力）要因については、圧力の小さいメッセージよりも圧力の大きいメッセージのほうが受け手に否定的な反応を喚起させていた。

性別要因については、順態度的脅威条件の圧力小メッセージの場合に、女子は男子よりも肯定的感情を示すという差異が生じた。また、自由記述でも、女子においては同調を示す記述が条件内の記述全体の7割であった。これらのことから、圧力が小さく、初期態度と一致する方向の脅威が与えられた場合、すなわちリアクタンスが喚起されない場合は、女子は男子よりも同調傾向を示すと考えられる。ただし、直接的な自由回復行動である行動的反応においては、性役割タイプと脅威の方向の交互作用が見られた。したがって、女性的な者は初期態度と一致する方向の脅威が与えられた場合に、より同調傾向を示すと考えられる。本研究では、リアクタンス喚起による同調行動における性差は、性役割タイプの差異が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。